

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019470044		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホーム 麻・藍 (麻)		
所在地	河西郡芽室町東芽室南2線16-12		
自己評価作成日	平成26年1月8日	評価結果市町村受理日	平成26年3月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0174700872-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 1 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個人の生活リズムを大切にし、出来るだけその人に合った生活が出来る様に支援しています。
・老健施設が隣接されている為、日曜日など施設を使用されない時は、系列のGHと一緒に、夏、冬と家族会を行い親睦を深めて頂いています。また、福祉車両を借りることが出来ます。
・1階にはデイサービスがあり、催し物等に参加され、楽しんで頂いています。
・近くには他のGHが2棟あり、利用者が行き来できます。同じ町内にもGHが4棟ある為、全ホームで意見交換を行い、相談しながらより良い支援を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人は医療法人から社会福祉法人に平成26年1月1日から変更になりました。敷地内には老健施設やデイサービスのほか関係するグループホームもあります。地域柄畑作農家が多く一面畑の中で各事業所と一体となり利用者を主体とした数々の交流の場を作っています。併設されているデイサービスの利用者と一緒にサークル活動を行いなじみの関係がとぎれることのないように支援を行っています。管理者と職員は常に質の高いケアを目指して向上心を持ち研鑽に励んでいます。年2回夏と冬に利用者家族の交流会を開き利用者と家族同士、家族と職員の交流がとても喜ばれています。職員のチームワークも良く、明るく穏やかな心配りで支援を行い、利用者の尊厳を守り日々穏やかに暮らせるように支援を行っています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

有限会社 ふるさ

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿い、その人らしく生活出来るように日々努めている。	理念である「地域の中で共に助け合いながら安心した生活を送ることができる」を基に管理者と職員は理念を共有しながら日々の生活の中で実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慰問には出来る限り参加し、ドライブや外出等を行い地域と接触して頂く様に努めている。また、ご家族の協力にて老人会に出席されている利用者もいる。	隣接する老健施設やデイサービスとの行事交流が盛んに行われています。参加のたびに参加者の知人と会話などして交流しています。家族の協力により利用前の地域の老人会に出席している利用者もいます。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修や講習にて勉強している。いつでもホームを見学して頂ける様に開放し、相談等があれば随時対応している。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、役場や住民の方に出席して頂き報告や、話し合いの場を設けている。そこでの意見はフロアー会議で話し合いサービス向上に活かしている。	定期的に2ヵ月に1度開催されています。地域の代表、地域包括支援センター職員、家族、利用者等の構成メンバーで実施されています。利用者の状況説明やホームの状況報告を行いながら参加者から意見を頂いています。出された意見は会議で話し合いサービスに活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、実地指導、認定調査の際にお話し、アドバイスを頂いている。	総括部長が行政と積極的にコンタクトを取り、ホームの実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や講習にて勉強しながら身体拘束について再確認している。また、防犯上夜間は玄関を施錠しているが、日中は施錠をせずに、拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部講習や法人研修等で身体拘束をしないケアを学び、マニュアルを作成し全職員で再確認をしながら日々の中で拘束のないケアに取り組んでいます。	
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や講習にて勉強し、会議などで話し合いながら日々、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている方は現在入居されていませんが、必要性や制度について話し合いながら勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に家族に説明を行い理解して頂いている。また、いつでも不安な事や、疑問があったなら尋ねて下さる様にお話している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議には、ご家族の方に出席して頂ける様にお話をしている。面会の際には希望や、要望を確認し、いつでもお話して頂ける様に話し易い環境づくりに努めている。また、会議や日常の業務の際には職員、管理者と話し合っている。	家族の来訪が多く日頃よりコミュニケーションを大切にし、利用者の様子を説明しています。家族からの意見は記録をし介護計画や運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議で管理者より話があり、意見交換を行いながら反映させている。	職員の意見は連絡ノートやケア会議、日頃の業務などで話し合い、ケアに関する意見は直ちに反映させています。職員は会議の中で意見や提案を積極的にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を業務等に反映し、会議などで努力や成果を評価しながらやりがいや向上心を持って頂けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新職員には積極的に研修や講習に参加して頂けるように働きかけ、法人内外の研修にも参加して頂いている。また、介助など個別に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人の札幌の老健やGHとの研修や交流会に参加している。また、GH協会の研修にも参加しながらネットワーク作りや、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	8	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者を決め、個別にお話をお聞きする機会を設け、出来る限り本人の意見、要望に沿えるように支援している。また、不安な様子はないか？常時様子を見ながら耳を傾け、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とじっくりお話しし、出来るだけ要望に沿えるように支援している。また、困っている事や不安な事はいつでも言ってくださる様に伝え、面会の際にはお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人とお話ししながら、必要としている支援を見極める様に努めている。その際、介護支援専門員や関係機関からの情報も参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生い立ちや過ごされていた環境を把握し、本人とお話しをする機会を作っている。掃除、洗濯物たたみ等を一緒に行いながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にし、日頃の様子を随時お話ししている。家族の負担にならない様に配慮しながら、外出や帰宅など協力をお願いしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が気軽に遊びに来やすい環境や雰囲気作りに努めており、他ホーム、施設の方やデイサービス方が面会に来られている。	隣接するデイサービスを利用している友人を訪問したり、来て頂いたりしています。また、家族と帰宅をしたり馴染みの理美容に行くこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しない様に声掛けや、職員が間に入るなど、利用者同士が関わり合えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方には、面会に行ったり、町などでご家族の方をお見かけした際には声をかけている。また、退所されたご家族の方が、「皆さんで」と手作りのかぼちゃ団子を持って来て下さり、本人の様子などをお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体調や環境に考慮しながら、出来るだけ本人の希望に沿うよう、お話しをお聞きし意向の把握に努めている。	利用者と日常的な関わりの中で一人ひとりの思いや希望を把握しています。また、表意困難な利用者には家族の協力をいただきながら本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、本人にお話をお聞きし、介護支援専門員や他施設での情報も参考に、これまでの生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介助や、コミュニケーションから出来る事、出来ない事を把握し、変化があった時は、連絡ノートを用い職員全員が把握出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに担当を付け、ご家族に要望、希望等をお聞きしている。また、会議では皆で意見やアイデアを出し合い介護計画に生かしている。	担当者が利用者並びに家族の意見及び要望を聞き、ケア会議やカンファレンスの中で全職員で話し合い介護支援専門員が介護計画を立てています。身体状況に変化が生じたときは現状に即した介護計画に変更をしています。生活記録は詳細に記録し介護計画に連動しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や連絡ノートに記録、記入し、日々の業務内では職員同士で話し合いをながら、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	7棟あるGHからの意見を参考にし、系列の老健施設やデイサービスの協力を得ながら、既存のサービスにとらわれない柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全かつ、楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元のかかりつけ医の受診支援を受けて頂き、本人、家族の希望があれば自由に病院を選ぶ事も出来る。かかりつけ医は急変時には夜間でも対応して下さい、他の医療機関も紹介させて頂いている。	利用前からのかかりつけ医には家族が同行して受診しています。家族の都合によりホームでも対応をしています。かかりつけ医は急変時にも夜間対応をさせて頂いています。家族対応の時はホームでの生活状況を医師に伝えて家族からは医師の内容を伝えていただいています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている保健施設より、週 5 日看護師が様子を診に来られ、日々の変化などを相談し健康管理に生かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の日常生活、注意する点などを記入し、入院先にお渡ししている。また、お見舞いに行き状態を確認しながら病院関係者にもお話を伺い、ケースワーカーからも状態の報告の電話が来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より重度化した場合や、終末期のあり方についてご家族にお話し、希望や要望を伺い、ホームで出来る事を説明している。	事業所の看取り指針に沿って利用時に説明していますが、早い段階から重度化した場合や終末期について再度話し合い希望や要望を確認してホームでの出来ることを説明しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を受け、話し合いをしている。連絡先、対応など目のつく所に張り出し確認出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導、避難訓練を行い併設している老健施設より協力を得る様にしている。	避難訓練を行っており、本年度は 1 回実施しています。避難訓練では隣接している。老健施設より協力を得るようにしています。	避難訓練は年 2 回以上行うことが望ましいと思われます。災害訓練や避難訓練を消防職員立会いの下で行いながら、夜間を想定した訓練も必要です。老健施設職員にも訓練に参加をいただき役割を確認して協力をいただくことを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	狭い空間の中での会話を他者が気にされる事もあり、個々の会話も周りへの気遣いが大切だと反省し、日々の声掛けや対応を行っている。	日頃よりいろんな場面での声掛けを周りに気をつけながら行っています。トイレ誘導や入浴時の拒否対応などは特にプライバシーや尊厳を損ねないように対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志を上手く伝える事が出来ない方も多く、日常の様子を見ながら自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所されている為、利用者が本当にしたい生活とは言い難いが、一人ひとりのペースに合わせ少しでも希望にそえる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りを拒否される方がおり、実施出来ない面もあるが、併設されている理美容には定期的に行っている。また、選べる方にはその日に着る服を選んで頂き、重ね着や裏に来ている時にはそっと声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、柔らかい物や刻みにて提供している。その人の能力に合わせ、できる方には調理のお手伝いや、テーブルを拭いて頂くなど協力して頂いている。食事は、他者、職員と一緒にお喋りをしながら召し上がって頂いている。	利用者個々の嗜好を把握して献立に取り入れています。利用者の健康状態に合わせて食事形態に変化をつけています。季節行事食や誕生日食、外食も支援しています。利用者ができることに応じて職員と一緒に準備、後片付けを行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせ食事の量を調節し、水分摂取の際にはトロミを付けたり、お茶が苦手な方には好みの物をお出ししている。また、水分チェック表を作成し水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る所は本人にお願いし、仕上げは職員が行っている。また、必要に応じて歯科に往診に来て頂き、一人ひとりに合った口腔ケアの指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しながら、利用者に合わせた排泄支援を行っている。尿意がない方でも声掛けにてトイレに誘導を行い、排泄を促している。	排泄チェック表で個々の排泄を把握し声かけ、誘導を行っています。日中はトイレ排泄を行い、夜間は個々に合わせています。このため、パットやトレーニングパンツ等を使用してる方もおります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い運動への働きかけをしている。野菜中心の献立を立て、一人ひとりの排便の周期や状態を確認し、ヨーグルトやきな粉を用いながら便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務の関係上夜間の入浴は実施出来ないが、毎日入浴を実施し、午前、午後などお好きな時間で入浴して頂いている。	毎日入浴は出来る様にしていますが、週2～3回を目途に入浴しています。入浴剤の好きな方は利用をしています。また身体にクリームを使用するなど楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせ、必要に応じ居室やソファで休んで頂いている。夜間安眠されない時は、自由にテレビを観たり、お話を伺ったり等し安心して入眠して頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を用い、入居者一人ひとりの服薬を把握するようにしている。また、変更があれば連絡ノートにて伝達を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞配達や洗濯物たたみ等、出来る事はお願いしている。また、毎月の行事の予定を立て楽しんで頂いたり、他の施設の催し物を観に行ったり、散歩をしたりと楽しみごとや気分転換の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良ければ敷地内を散歩して頂いている。また、皆さんではないが、ご家族と頻繁に外出される方、定期受診のついでにご家族とお出かけになる方等、ご家族の協力を得ながら支援している。	敷地内を散歩して外気浴を毎日できるように支援を行っています。ドライブや季節観光、外食など家族に協力を得ながら支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金の管理ができる方には所持して頂く様にしている。また、ご家族よりお小遣いとしてお預かりし必要な物はその中で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙の希望はないが、電話の希望がある時には職員が番号を押し、電話口に出たら代わる様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い時にはカーテンやロールスクリーンを下げている。適度な温度、湿度を保つように加湿器、除湿器を使用している。カレンダーや共有の空間の飾り付けは季節感を用いるようにし、お彼岸や冬至等にはおはぎやかぼちゃ等をお出しし、季節感を味わって頂いている。	居間は明るく廊下は回路になっています。植物を置いたり回路廊下の壁には行事写真が貼ってあり、居室には個々に工夫がされた表札が掲げてがあります。ソファを置き移動のできる畳台で洗濯物をたたんだり、利用者は其々の場所で寛いでいます。車椅子の方のために安全を考えて配置替えを行っています。生活感や季節感がある共有空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は自然と一人ひとりに合った居場所が出来ているが、ソファを多めに配置しその時々によって、自由に座って頂くようにし気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には、使い慣れた物を持参して頂く様にお話し、個々の家具の配置などはご家族、本人と相談しながら決めている。また、その都度不都合がないか、様子を見ながら本人とお話している。	居室には洗面台とクローゼットが設置されています。使い慣れた家具やテレビ、テーブルなどを持ち込み、壁には行事の写真、家族写真、手作り作品等を飾っています。また仏壇を持ち込みお参りしている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	月に一度の会議では一人ひとり出来る事、分かる事について話し合い、情報交換を行っている。歩行器や車椅子を自走できる十分なスペースを確保し、安全に生活できる様に家具の配置など色々試しながら、環境整備に努めている。		